

他種とは、前胸背板前隆線が前胸の1/3に達さず、側隆線が前胸の基部2/3程度まで伸長することで区別できる(久松, 1985)。

2. ハチジョウチャイロコメツキダマシ *Fornax hachijonis* Hisamatsu, 1963

本種は、伊豆諸島(八丈島, 三宅島), 小笠原諸島(母島, 父島), 対馬, 大隅半島, 種子島, 屋久島, 琉球列島, 台湾(蘭嶼)から記録されている(城戸・小田, 2008; 鈴木, 2009, 2010)。九州本土からは城戸・小田(2008)において1個体が記録されているのみであったが、九州本土で本種を複数個体得ているため、追加記録としてここに報告しておく。さらに、久松(1985, 1989)において琉球列島が分布域に含まれているが、具体的な島名が示されたことはないため(鈴木, 2003), 奄美大島と石垣島で採集した個体も合わせて記録しておく。

7exs., 鹿児島県肝属郡南大隅町佐多辺塚, 18~19. VII. 2009, 有本晃一採集・保管; 1ex., 鹿児島県肝属郡南大隅町佐多辺塚, 217 m alt., 1. VII. 2011, 有本晃一採集・保管; 2exs., 鹿児島県奄美市名瀬知名瀬, 10-13. VII. 2010, 有本晃一採集・保管; 1ex., 沖縄県石垣市於茂登岳, 1. VII. 2009, 有本晃一採集・保管。

チャイロコメツキダマシ属 *Fornax* は日本から6種が知られているが、本種は触角第4-5節が著しく短小であることで他種から容易に識別できる。

引用文献

- 城戸克弥・小田正明, 2008. 鹿児島県大隅半島産の甲虫4種の記録. 月刊むし, (454): 13-14.
 鈴木 互, 2003. ハチジョウチャイロコメツキダマシの採集記録. 甲虫ニュース, (142): 10.
 鈴木 互, 2009. FITにより採集された伊豆諸島三宅島のコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (168): 17-18.
 鈴木 互, 2010. 対馬おけるコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (172): 11-12.
 久松定成, 1985. コメツキダマシ科, p. 42-51, pls. 8-9. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著. 原色日本甲虫図鑑(III), 514 pp. 保育社, 大阪.
 久松定成, 1989. コメツキダマシ科, p. 346-348. 九州大学昆虫学教室・日本野生生物研究センター・共同編集. 日本産昆虫総目録 I, xiii + 540 pp. 九州大学農学部昆虫学研究室, 福岡。

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)
 (有本久之 大阪市)

【短報】地表性コメツキムシ3種の食性の観察

地表性コメツキムシとされている種は、地上を歩行しているものや、石や地上に落ちている木材、ゴミなどの下にいるのが見つけられることが多いが、生態的なことはあまり報告されておらず、特に食性について纏めた報告はないと思われる。筆者らは沖縄島で観察した下記の3種について報告する。

報告にあたり、種の同定と生態の知見について有本久之氏にお世話になったことを明記してお礼申し上げる。なお、図1および図2は楠井、図3および図4は宮城が撮影した。

1) トカシキヒラタチビコメツキとウラベチビコメツキ

沖縄県那覇市の市街地中央に位置する新都心公園に、数本のオガサワラタコノキ *Pandanus boninensis* Warb. が植えられていて(図1)、地上に落下した果実から出る果汁にトカシキヒラタチビコメツキ *Heteroderes kusuii* Ohira, 1994(図2)とウラベチビコメツキ *Babadrasterius urabensis* Ohira, 1994が集まっていた。

1♂1♀(トカシキ), 2exs. (ウラベ), 24. V. 2013; 3exs. (トカシキ), 3exs. (ウラベ), 26. V. 2013; 1♀(トカシキ), 27. V. 2013; 1♂1♀(ウラベ), 30. V. 2013。

2種の記録はすべて楠井が果実で採集した個体数であるが、観察と撮影のために、また継続して観察するつもりでいたため目撃したすべての個体を採集したわけではない。特にウラベチビコメツキは小さく動きが速いので、かなりの数をとり逃している。

オガサワラタコノキは国内外来種で、その名にあるように小笠原諸島から観葉植物や街路樹として沖縄島に移入されたものである。果実は大きな球状の集合果で、熟して一片ずつが離れて落ち、親樹の根元の地面にころがっていた。

沖縄には在来種で本種と同属のアダン *Pandanus odoratissimus* L. fil. があり、同じような大きな集合果が実る。果実も同じように地上に落下するが、落下する一片がやや小さく、地上での乾燥が早くて果汁が得られないためか、これらの種が集まっている様子は観察できなかった。

なお図2には、オキナワマメコガネも写っているが、本種については別に発表の予定である。

2) アマミヒメサビキコリ

沖縄島東村高江においてアマミヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) amamianus* (Kishii, 1974) がアカマタ *Dinodon semicarinarum* (Cope, 1860) (ナミヘビ科, マダラヘビ属) の死体にきて肉を食べているのを夜間(22時49分)に観察した。



図1. 那覇市新都心公園のオガサワラタコノキ。実が根元に散乱している。



図2. オガサワラタコノキの実を食べるトカシキヒラタチビコメツキ。

1♀, 19. VIII. 2013. 宮城秋乃 (観察)。

アカマタは奄美諸島と沖縄諸島に分布する全長は 80 cm から 200 cm に達する無毒の大型のヘビである (高田・大谷, 2011)。林道の路上脇に首が切断されて死んでいたもので (図3), この種としては小型の個体であった。死因は不明であるが、首の切断面を見ると肉は比較的新鮮で、アマミヒメサビキコリは切断面の筋肉部を食べていた (図4)。



図3. アカマタの死体。首がなくなっている。



図4. アカマタの肉を食べるアマミヒメサビキコリ。

サビキコリの仲間は一部の種が樹液やバナナトラップに集まることが知られているが (鈴木, 1985) 食性に関する詳しい報告はほとんどない。有本 (私信) によると、サナギ粉を餌にしたピットホールトラップで採集され、また動物性の餌で飼育できるとのことである。アマミサビキコリは後翅が発達しており、夜間は活発に活動し、沖縄島では夜間公園などの灯火の下で見つかる。今回の観察でも夜間に活動し、肉食性を示すことが確認された。また本種がアカマタを好んで食するとは考えられないが、2種の分布地域はほぼ重複している。

引用文献

- 高田榮一・大谷 勉, 2011. 原色爬虫類・両生類検索図鑑. 292 pp., 北隆館, 東京.
 鈴木 互, 1985. クワガタムシ用バナナトラップに誘引されたコメツキムシ. 甲虫ニュース, (70): 5-6.

(楠井善久 903-0805 那覇市首里烏堀町 4-123-1 東苑荘 1-E)

(宮城秋乃 904-2427 うるま市屋平 4 2F
 うるま市立海の文化資料館)